

## めぐろシティカレッジ「修学旅行」・宿泊巡検

### 第1回「修学旅行」

金田一春彦さんの講義は名講義だった。音声・言語学への興味をわかせてくれるとともに、石川啄木の「借金魔」的存在をある種の愛らしさで包んで講義を進める力に、受講者は岩手・渋民への関心を強めていった。金田一さんの講義のリアリティを渋民で実感しよう。啄木が代用教員で教鞭をとった学校・教室が保存されているという。その教室で石川啄木に関する講義を現地の学芸員からも聞ける。よし、「修学旅行」を実施してみよう。秋の紅葉シーズンがよい。渋民から八幡平へ紅葉を見る楽しみも付け加えよう。盛岡駅現地集合、現地解散。平成17年9月30日、10月1日の2日間。

マイクロバスを現地で調達して、盛岡・啄木新婚の家→渋民（渋民村小学校、記念館）→姫神ユートランド（泊）→八幡平→松川地熱発電→盛岡というコースで回る事となった。日本一の代用教員を目指した啄木が授業をした教室で、啄木の教員生活の講義を現地の学芸員から聞くことで、もう一つの啄木像を描くことができた。生活苦にあえぐ青春がもつ清新な姿が見えてくる。八幡平の紅葉には少々時間が早かった。しかも「雨」が降り出しそれに追われて早々に盛岡に戻らざるを得なかった。松川地熱発電だけでなく、白濁したすばらしい温泉であることを後で知り、少々残念な気持ちになった。

何よりもすばらしいことは、めぐろシティカレッジで「修学旅行」ができたこと、宿泊をすることで参加者がシティカレッジにもっと深くかかわりたい、という気持ちを持つことができた、しかもそれが講義からはじまったことは最大の収穫であった。（山崎憲治）

## 第二回修学旅行 「三陸被災地の実際を知る」

2013 年夏、東日本大震災の被災地を知る旅を企画した。この宿泊研修旅行は「目黒学18—地域連携の可能性を探る・・・東日本大震災から見えてくるもの」から生まれた。3泊4日という長丁場の学習であった。東日本大震災の被災地から、その現実を知ろうとするものであった。当時は、被災状況が生々しく残っており、その過酷な姿を知る最後の機会でもあった。コースは、目黒区と連携都市である、気仙沼から開始した。市内にまだ巨大な魚運搬船が陸に打ち上げられたままの状態だった。市内のホテルで昼食をとり、従業員から津波が襲う当時の事情のききとりを行なった。また唐桑まで足を伸ばし地震・津波体験装置を用いた「体験」学習をすすめた。そこから海岸線にそって国道45線を北上する。陸前高田、大船渡、釜石、大槌、山田、宮古と被災地をめぐる。陸前高田、大船渡、釜石を見ると、復興にはとてもたどり着けないのではないかと思う状況であった。海岸近くでは地形がかわり、船が打ち上げられ、瓦礫処理も一向に進まない状況にあった。最初の宿泊地は釜石・鶴住居の近くにある宝来館にした。女将が津波に飲み込まれた経験を持ち、何とか再建を図ろうとしている姿を現地で知ることができた。釜石の「奇跡」の背後には、多くの犠牲があることを知った。大槌、山田は津波とともに発生した火災被害の実際を知ることになる。水攻め・火攻めは、明日の東京の直面する状況を想定しうる状況を示していた。町の中核部が被災した場合、初期の救援・救助は手付かず状態になることを改めて、確認せざるを得なかった。宮古から田老へ。世界最大の防潮堤を津波は易々越えている。ハードな工作物で巨大で異常な自然力に立ち向かうことは、極めて厳しいことだ。しかし、防潮堤は無駄だったのか？今回田老を襲った波のうち、第一波はこの堤防で食い止められている。第二波までの6分あまりが、住民に生存の最後のチャンスを与えている。現地で丁寧な見学・検証は真実を見る機会をつくっている。宿泊地は岩手県で最大の仮設住宅が敷地内に建設されているグリーンピア。翌日は被災された方にお願ひし、仮設住宅を見学させていただいた。生活空間の狭い実態や外気に直接生活する部屋が直撃されている実態を知ることになる。いまや仮設でなく、そこから出ることが難しくなっている被災者が大変多いことしかも高齢者であることは、復興がなかなか進まない根幹の問題として把握することが必要だ。

翌日は最後の訪問地葛巻を訪ねた。住民票を葛巻に移せば1反歩の土地が提供されるという。8千人の住民の町だが、住民が使う電力の2倍以上を自然エネルギーで発電可能としている。14機の風車が生み出す電気でここまで可能だ。葛巻ではあと200機風車の設置が可能だが、生産した電気を購入する相手や送

電方法が見つからない。残念ながら、自然エネルギーから電気を得る道をどんどん狭くしている、現実を知ることとなった。

東日本大震災は日本の持つ弱点を顕在化した。それは高齢化社会問題、食料問題、そしてエネルギー問題である。この巡検の最後の訪問地葛巻は、エネルギー・食料・環境問題の解決を「町」レベルで図ろうとしている。過疎に悩む村で、このような豊かな取り組みが展開している姿を知るとは、驚きであると同時に次の可能性の姿を見る機会でもあった。

3泊4日という長丁場の巡検だったが、体調を崩される参加者を生まなかった。被災の現場にお誘いするのはなかなか難しい。しかし、受講者の皆さん、丁寧に見学されていた。そして、多くの発見をされたに違いない。日本の現実の姿でもある。この巡検の後、ふたたび葛巻を自主グループで訪れている方もおられたことも報告しておきたい。復興の現場を見る「修学旅行」を企画してもよいのではないかと考えている。(山崎憲治)

### 第3回修学旅行 富士山巡検

昨年実施した富士山巡検、シティカレッジの受講者に呼びかけたビラの内容をそのまま載せ、どのような展開があったかを報告しよう。

ビラ内容は以下のとおり：

文化庁文化審議会専門委員、環境・災害研究者が案内する

期日 平成26年8月27日(木)から28日(金) (1泊2日)

費用 29,000円 (トイレ付き大型バス、宿泊費、食事つき)

コース 27日：目黒区役所 (8時出発) →中央道→富士スバルライン→富士山五合目→ほうとう不動 (昼食) →鳴沢氷穴 (見学者が多いため、こうもり穴に変えた) →青木ヶ原樹海→北口本宮富士浅間神社→河口湖温泉・富士レイクホテル (泊)

28日：富士レイクホテル→精進湖・本栖湖→人穴浅間神社→白糸の滝→村山浅間神社→富士山本宮浅間神社→志ほ川 (昼食) →千本松原→柿田川湧水→丹那断層→東名高速→目黒区役所 (19時20分頃)

案内者 堀信行 (理学博士・地理学 環境、文化庁文化審議会専門委員) 山崎憲治 (博士・地理学 災害・環境) 越田年彦 (博士・経済学 環境) の3名が現地で解説をしながらご案内します。

呼びかけ対象 めぐるシティカレッジ受講生及びご家族等 (定数に達しないおそれがある場合、目黒区住民にも呼びかけます。)

世界文化遺産に登録された富士山の魅力を現地で学ぼうとする企画。8月27日は富士吉田にある、北口本宮富士浅間神社の火祭りに当たり、ご神体が神輿から神社に移る現場を拝むことができるチャンスを得た。残念だが、天候は悪く、富士山山頂を拝むことできたのは一瞬だった。しかし、富士山信仰を歴史の中で追うことができた巡検となった。溶岩の流れが止まった地点で、社殿も拝殿も持たない「浅間神社」、一方で家康の庇護や菊の紋章をもつ「浅間神社」、修験道が行を組んだ「風穴あとの穴」いずれも富士山・その信仰の姿を示している。多様な文化遺産富士山を学ぶことができたという点で、豊かな巡検だった。少々強行軍だった点、今後の課題に残ったが、講師にとっても満足度の高いものだった。(山崎憲治)